研究プロジェクト概要

川口 裕司（研究代表者）

東京外国語大学外国語学部教授

1. 研究目的

インターネットの急速な発展にともない、いたる所で大規模容量の情報がブロードバンドにより配信されるようになった。大学教育の中にもマルチメディアやコンピュータが当然のように導入されるようになってきた。東京外国語大学が使命を負うところの外国語教育にも、こうしたIT化の流れに乗り遅れることなく、情報工学などの基盤を利用して、より先端的な外国語教育を提供し、効率的な講義を行うとともに、高度な言語運用能力をもち、国際的な舞台で活躍することのできる人材の養成が強く求められるようになってきた。

東京外国語大学は西ヶ原キャンパスから府中キャンパスへの全学的な移転に伴い、情報インフラが整備され、文系の独立行政法人国立大学としては、トップクラスのIT技術とIT環境を備えたキャンパスになった。また規模の小さな単科大学であることは、全学的な高度情報環境の実現にとっても有利な環境である。

本研究ではこうした先端的な情報基盤を活用して、東京外国語大学で必要とされる高度な外国語教育を実現するため、言語学と言語教育学と情報工学の専門家が協力し、IT技術の外国語教育への応用の可能性を模索するとともに、外国語教育の質と内容そのものに関して、コンピュータ言語学やコーパス言語学の最新の成果を応用しつつ再検討を行う。そして、いつでもどこでも音声トレーニングやマルチメディアを利用した会話トレーニングができるようなユビキタス環境を構築する。また学生個々人の能力、ニーズ、レベルに応じた個別学習を可能とするために、IT技術をどのように活用できるのかを研究する。それによって従来の教育方法では困難であった学習者個々人の進度に応じた対応を可能にし、学習者間および学習者と教員との間のコミュニケーションを重視したe-Learning環境を構築し、より協調的な学習を実現するための基盤的研究を行う。

2. 研究組織・科学研究費補助金配分額

研究組織

研究代表者・研究分担者・研究協力者

氏名	所属研究機関・部局・職	役割分担等
研究代表者 川口 裕司	東京外国語大学・外国語学部・教授	全体統括、言語班(フランス語・トルコ語分析と教育手法の研究)
研究分担者 芝野 耕司	東京外国語大学・アジアアフリカ言語文化研究所・教授	情報班 (Web教材のシステム開発)
高垣 敏博	東京外国語大学・外国語学部・教授	言語班(スペイン語分析と教育手法の研究)
野間 秀樹	東京外国語大学・大学院地域文化研究科・教授	言語班(朝鮮語研究と教育手法の研究)
黒澤 直俊	東京外国語大学・外国語学部・教授	言語班(ポルトガル語研究と教育手法の研究)
成田 節	東京外国語大学・外国語学部・教授	言語班(ドイツ語研究と教育手法の研究)
平井 和之	日本大学・文理学部・教授	言語班(中国語研究と教育手法の研究)
根岸 雅史	東京外国語大学・外国語学部・教授	評価班 (教育手法と評価)
佐野 洋	東京外国語大学・外国語学部・教授	情報班 (Web教材のシステム開発)
川上 茂信	東京外国語大学・外国語学部・助教授	言語班(スペイン語研究と教育手法の研究)
三宅 登之	東京外国語大学・外国語学部・助教授	言語班 (中国語研究と教育手法の研究)
吉富 朝子	東京外国語大学・外国語学部・助教授	評価班 (教育手法と評価)
林 俊成 計13名	東京外国語大学・外国語学部・助教授	情報班 (Web教材のe-Learning化)
学外協力者 宮本 正美 計1名	神戸市外国語大学・外国語学部・教授	スペイン語コーパス言語学

氏名	所属機関・身分	役割分担等
研究協力者		
藤原 愛	東京外国語大学・大学院・博士後期課程	ウェブ発音教材の評価
結城 健太郎	東京外国語大学・大学院・博士後期課程	市販教材のモニタリング, ウェブ会話教材のシラバス設計
松本 剛次	東京外国語大学・大学院・博士後期課程	会話教材のためのニーズ調査, ウェブ会話教材のシラバス設計
金 銀美	東京外国語大学・大学院・博士前期課程	会話教材のためのニーズ調査
梓沢 直代	東京外国語大学・大学院・博士前期課程	会話教材のためのニーズ調査
幸松 英恵	東京外国語大学・大学院・博士前期課程	会話教材のためのニーズ調査
志波 彩子	東京外国語大学・大学院・博士前期課程	基本文法プロフィール基礎調査(日本語)
須藤 秀樹	東京外国語大学・大学院・博士後期課程	基本文法プロフィール基礎調査(中国語)
宮下 和大	東京外国語大学・大学院・博士前期課程	基本文法プロフィール基礎調査(スペイン語)
金 恩愛	東京外国語大学・大学院・博士後期課程	基本文法プロフィール基礎調査(朝鮮語)
金 美仙	東京外国語大学非常勤講師	朝鮮語基礎語彙一動詞編
狩野 晶子	上智大学非常勤講師	ウェブ英語会話教材附属指導書
向井 緑	東京外国語大学・大学院・博士前期課程	ウェブ英語会話教材附属指導書
鵜沢 菜摘子	東京外国語大学・大学院・博士前期課程	ウェブ英語会話教材附属指導書
加藤 愛	東京外国語大学・外国語学部	ウェブ英語会話教材附属指導書
杉山 香織	東京外国語大学・大学院・博士前期課程	ウェブフランス語発音教材開発
武次 三愛	東京外国語大学・大学院・博士前期課程	成果報告集の編集・校正
計17名	身分は研究協力当時のものである。	

交付決定額(配分額)

(金額単位:千円)

平成 14(2002)年度 直接経費	平成 15(2003)年度 直接経費	平成 16(2004)年度 直接経費	平成 14-16 年度 直接経費 合計
4,700	7,100	2,700	14,500

3. 研究実施計画

平成 14 (2002) 年度

本研究では、言語を基本言語層、日常言語層、文化言語層の三つにわけ、それぞれの言語層の特長を生かしながら、より高度な言語運用能力を学習者に提供できる教育手法を開発する。

初年度はこのうち、とくに日常言語層を中心にした研究が行われた。本研究は、東京外国語大学大学院地域文化研究科において採択された 21 世紀 COE プログラム『言語運用を基盤とする言語情報学拠点』と密接な関連性があるため、両プロジェクト間の連携をとりながら、それぞれが補完的な学術研究になるよう十分な配慮がなされた。

先端的な外国語教育手法の開発は、最新の言語教育学および応用言語学の成果を土台にしたものでなければならない。そのために初年度から高度な言語教育手法を開発するための基礎研究を開始した。

まず教材開発の予備的段階として、既存 CALL 教材の評価がある。平成 13 (2001) 年度に研究代表者の川口が中心となり、学内の教育整備推進費の補助を受けて、既存の多言語 CALL 教材の綿密なモニタリングが行われた。本研究はその予備的研究を継承し、さらに発展させることになった。言語班の教員と院生が中心になり、上述のモニタリング調査結果が詳細に分析された。モニタリングの対象となった言語は、フランス語、スペイン語、ドイツ語、ポルトガル語、中国語であり、主に大学院生たちがモニターとなり、各教材のコンテンツ、各課の配列、発音記述、文法記述、操作性などが詳細に比較検討された。教材の調査結果は、第 1 章の「既存 CALL 教材のモニター調査とその分析」、pp. 17-70 に詳しい報告がある。この分析を通して、本学が構築し続けてゆくであろう Web 教材の輪郭が明らかになった。情報班は Web 教材を実現するための諸問題を検討し始めた。

6 月から 10 月にかけて、基本言語層に属する発音と日常言語層に属する会話の Web 教材を開発するための基礎研究が本学の院生協力者たちを中心に行なわれた。とくに 21 世紀 COE の審査結果が 9 月に公表されるまでは、基礎研究はすべて本科学研究費補助金によって行われた。p. 10 の研究会報告を参照。したがって 10 月以降は 21 世紀 COE との研究の補完性を考え、本科学研究費補助金は、研究基盤のインフラ整備を重点とし、そのため本学図書館における言語教育学・応用言語学関連の雑誌・図書の所蔵検索を実施し、重要なレファレンスであるにもかかわらず所蔵のない雑誌・図書をリストアップし、これらを優先的に購入した。一方、平成 15 (2003) 年度に公開が始まったインターネット上の発音教材と会話教材の開発は、21 世紀 COE の補助金で行われた。

平成 15 (2003) 年度

平成15年度以降は、本研究の中に設置された3つの研究グループが実質的に稼働し始め、それぞれが有機的に連携しつつも、各グループのテーマをそれぞれ研究することになった。

言語班：

各言語の文法教材の開発に向けた基礎研究を行った。東京外国語大学では26の異なる言語が専攻言語として教えられている。本学が開発する文法教材は、その26言語をある程度包括するような一般文法的な枠組みを提供することが望まれる。そのために本研究では、フランス語やスペイン語やドイツ語といった典型的な西ヨーロッパの範列（パラダイム）中心の文法記述と中国語や朝鮮語のようなアジアの表現型を中心とした文法の両方を包み込むような文法体系を模索し、個別言語の文法プロフィールというものを作成するに至った。このプロフィールを比較対照することで、従来の個別言語的な文法の枠組みにとられることなく、複数の言語にわたる通言語的観点を重視し、一般文法的な枠組みの中で、個別言語の文法現象をとらえることができると思われる。個別言語の文法プロフィールは、平成15(2003)年度から院生協力者によって、まず中国語・日本語・スペイン語のモデルが提示され、他の言語もこれに続いた。pp. 10-11 の研究会報告を参照。本科学研究費補助金により作成された文法プロフィールは、第2章の「1. 文法プロフィール」, pp. 73-146 に収められている。

評価班：

東京外国語大学大学院の21世紀COEが開発した発音教材について、学内外の教員・学生に教材を評価してもらうためのアンケート項目を検討した。院生協力者によって具体的な評価の観点を検討され評価シートが準備された。年度内にアンケートを実施し、その結果を平成16年度以降の発音教材の改訂に役立てることにした。また同じく会話教材の内容を改訂するために、日本人および外国人留学生に対して学習ニーズ調査を行うため、こちらも調査項目を選定し、年度内の実施を目指した。

情報班：

情報班はインターネット上のモジュール教材の外部アクセスと内部閲覧のためのネットワーク環境の整備を行った。また平成16年度から本格的に e-Learning を行なうためのシステム設計も行った。これらのネットワーク環境およびユビキタス環境の整備については第4章の「1. ユビキタス環境」, pp. 379-390 を参照のこと。

平成 16 (2004) 年度

言語班：

平成 15(2003)年度に作成した個別言語の文法プロフィールをデータベース化し、個別言語的および通言語的な観点からみて不足している文法項目などが補われ、文法プロフィールの全体図がほぼ確定した。このほかに平成 16(2004)年度には、コンピュータを用いて個別言語のコーパス解析を行い、当該言語に特徴的な言語運用データを分析し、その成果をどのように文法教材に応用できるのか、その可能性をさぐった。こうしたコーパス言語学的研究とその文法教材への応用については、第 2 章の「2. コーパス言語学と文法教材」, pp. 147-236 に詳しい報告がある。

また朝鮮語では教材作成や評価テスト作成の参考となるよう、朝鮮語の学習に必要な基本動詞に関する教材調査が行われ、2 種類の動詞一覧が作成された、これについては pp. 204-235 を参照。

言語班ではまた、平成 15(2003)年度に実施した発音教材の評価結果を受けて、新たな発音教材の可能性を追求した。これについてはフランス語の発音教材（理論編）の第 1 版とトルコ語の発音教材開発のための基礎研究を行った。詳しくは第 2 章の「3. 発音教材開発」, pp. 237-290 を参照されたい。

評価班：

平成15(2003)年度に行った発音教材に関するアンケート調査結果の集計と分析を行い、利点と問題点を指摘し、今後の改訂に生かすための提言を行った。日本人および外国人留学生の学習ニーズ調査の結果をまとめ、会話教材の改良点の洗い出しを行ない、学習者のニーズに適合した教材を実現するための提案を行った。発音教材の評価結果は、第 3 章の「発音教材における評価シート作成およびニーズ調査」, pp. 293-318を参照されたい。また学習ニーズ調査も同じく第 3 章の「大学場面で必要とされる会話の種類とその横断的推移についての一考察」, pp. 319-353を参照のこと。さらに評価班では、21世紀COEが開発した英語会話教材について、クラスなどでの利用を考え、専用の教師用マニュアルを作成し、本教材を用いた教育手法について具体的な検討を行った。本書のpp. 354-376を参照されたい。

情報班：

これまで行ってきた発音教材と会話教材のウェブ化をさらに推し進め、ユビキタス環境を構築し、平成 16(2004)年度より、いよいよ教材の本格的な e-Learning 化が始まった。これにより今後利用者データの蓄積が行われ、インターネットを活用した言語教育の手法の利点と問題点などが検討されるであろう。

4. 学会発表・研究会・集中講義

学会発表

外国語教育学会第6回大会	
月日	2002年12月14日(土)
題目	機能シラバスにおけるユーザの視点から見た機能分類
発表者	結城 健太郎(東京外国語大学大学院博士前期課程)

()内の身分は発表当時のものである。以下同様。

外国語教育学会第6回大会	
月日	2002年12月14日(土)
題目	初級日本語教材における会話スキットの課題、及びTUFS-Dモジュールでのスキット作成計画と中間報告
発表者	松本 剛次(東京外国語大学大学院博士前期課程)

外国語教育学会第6回大会	
月日	2002年12月14日(土)
題目	シンポジウム 外国語能力の評価法
発表者	司会 黒澤 直俊(東京外国語大学助教授) 川口 裕司(東京外国語大学教授) 根岸 雅史(東京外国語大学助教授)

外国語教育学会第7回大会	
月日	2003年10月11日(土)
題目	シンポジウム 外国語教育のIT化—現状と課題—
発表者	司会 川口 裕司(東京外国語大学教授)

外国語教育学会第8回大会	
月日	2004年10月24日(日)
題目	英語会話モジュール教材附属指導用手引き(TM)の開発:TM作成にあたっての理論的枠組み
発表者	向井 緑(東京外国語大学大学院博士前期課程) 鵜澤 菜摘子(東京外国語大学大学院博士前期課程) 加藤 愛(東京外国語大学外国語学部)

外国語教育学会第8回大会	
月日	2004年10月24日(日)
題目	シンポジウム 早期外国語教育—可能性と現状 事例報告:英語会話モジュール教材附属指導用手引き(TM)の開発:教材及びTMのデモンストレーション

発表者	吉富 朝子（東京外国語大学助教授）， 向井 緑（東京外国語大学大学院博士前期課程） 鶴澤 菜摘子（東京外国語大学大学院博士前期課程） 加藤 愛（東京外国語大学外国語学部）
------------	--

研究会報告

第1回～第4回までの研究会は東京外国語大学語学研究所の定例研究会と共催で行われた。

第1回	
月日	2002年6月26日（水） 18:00～19:00
題目	ウェブ会話教材開発のための場面シラバスと機能シラバスに関する基礎調査
発表者	結城 健太郎（東京外国語大学大学院博士前期課程）

第2回	
月日	2002年8月1日（木） 18:00～19:00
題目	初級日本語教科書のシラバス分析と会話教材に関する考察
発表者	松本 剛次（東京外国語大学大学院博士前期課程）

第3回	
月日	2002年10月30日（水） 18:00～19:00
題目	学習者言語分析の変遷：その成果と第二言語指導にむけての示唆
発表者	吉富 朝子（東京外国語大学外国語学部講師）

第4回	
月日	2002年10月31日（木） 18:00～20:00
題目	ウェブ会話教材における機能50とその分類枠組み
発表者	結城 健太郎（東京外国語大学大学院博士前期課程） 松本 剛次（東京外国語大学大学院博士前期課程）

第5回以後の研究会は21世紀COE「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」の研究会と共催で行われた。

第5回	
日時	2003年1月23日（木） 18:00～19:00
題目	文法教材の設計思想
発表者	川口 裕司（東京外国語大学外国語学部教授）

第6回	
日時	2003年3月13日（木） 18:00～20:00
題目	スペイン語の基本文法プロフィール
発表者	宮下 和大（東京外国語大学大学院博士前期課程）
題目	日本語の基本文法プロフィール
発表者	志波 彩子（東京外国語大学大学院博士前期課程）

第7回	
日時	2003年4月18日(金) 18:00~19:00
題目	ウェブ発音教材の評価
発表者	藤原 愛 (東京外国語大学大学院博士後期課程)

第8回	
日時	2003年5月30日(金) 18:00~19:00
題目	中国語の基本文法プロファイル
発表者	須藤 秀樹 (東京外国語大学大学院博士後期課程)

第9回	
日時	2004年4月2日(金) 13:00~14:00
題目	ウェブ発音教材の評価シート分析
発表者	藤原 愛 (東京外国語大学博士後期課程)

第10回	
日時	2004年5月27日(木) 18:15~20:00
題目	ウェブ英語会話教材附属指導用手引きの開発(理論編) マニュアル作成にあたっての理論的枠組み
発表者	向井 緑 (東京外国語大学大学院博士前期課程) 鵜沢 菜摘子 (東京外国語大学大学院博士前期課程) 加藤 愛 (東京外国語大学外国語学部)
題目	ウェブ英語会話教材附属指導用手引きの開発(実践編) 練習問題及びマニュアルのデモンストレーション
発表者	向井 緑 (東京外国語大学大学院博士前期課程) 鵜沢 菜摘子 (東京外国語大学大学院博士前期課程) 加藤 愛 (東京外国語大学外国語学部)

第11回	
日時	2004年12月20日(月) 18:00~19:30
題目	ウェブフランス語発音教材(理論編)のデザイン
発表者	杉山 香織 (東京外国語大学大学院博士前期課程)
題目	ウェブ文法教材
発表者	林 俊成 (東京外国語大学外国語学部助教授)

集中講義

第12回	
日時	2005年2月15日(火)~16日(水)
題目	スペイン語コーパス言語学入門
発表者	宮本 正美 (神戸市外国語大学教授)

5. 出版物・学会誌等

平成 14 (2002) 年度

[雑誌論文]

著者名	論文標題			
Joaquim Brandão de Carvalho, Yuji Kawaguchi	Linéarité et variation : le cas du “n mouillé” en français			
雑誌名	巻・号	発行年		ページ
Flambeau	28	2	002	1-20

著者名	論文標題			
芝野 耕司	日本語処理技術の発展：漢字コードの標準化			
雑誌名	巻・号	発行年		ページ
情報処理	43, 12	2	002	1362-1367

著者名	論文標題			
成田 節	ドイツ語動詞「前綴り」の分離・非分離をめぐる ― ドイツ語授業での説明原理を求めて ―			
雑誌名	巻・号	発行年		ページ
東京外国語大学語学研究所 語学研究所論集	8	2	003	1-19

著者名	論文標題			
黒澤 直俊	古ポルトガル語の否定表現			
雑誌名	巻・号	発行年		ページ
ロマンス語研究	36	2	003	1-10

著者名	論文標題			
根岸雅史, 工藤洋路	自由作文の採点方法による採点者信頼性について			
雑誌名	巻・号	発行年		ページ
ARELE	13	2	002	10

[図書]

著者名	出版者			
芝野耕司	『増補改訂 JIS 漢字字典』			
書名	発行年		総ページ数	
日本規格協会	2	002	1406	

著者名	出版者			
黒澤 直俊, 武田千香	小学館			
書名	発行年	総ページ数		
日本語から引く知っておきたいポルトガル語	2 0 0 2	447		

著者名	出版者			
三宅登之 (共編著)	小学館			
書名	発行年	総ページ数		
中日辞典 第2版	2 0 0 3	2114		

平成 15 (2003) 年度

〔雑誌論文〕

著者名	論文標題			
Yuji Kawaguchi, Fumio Inoue	Japanese Dialectology in historical perspectives : Part I. The Linguistic Atlas of Japan – A Typological Viewpoint-			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
Revue belge de philologie et d'histoire	80	2 0 0 3	801-829	

著者名	論文標題			
中田俊介, 川口裕司	『ことばの内なることば』Languages within Language An evolutive approach, I. Fónagy, 2001			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
ふらんぼー	29	2 0 0 3	155-178	

著者名	論文標題			
川口裕司	『フランス語の過去時制とその教育』 Les temps du passé français et leur enseignement, E. Labeau et P. Larrivée, 2002			
雑誌名	巻・号	発行年	ページ	
外国語教育研究	6	2 0 0 3	119-124	

著者名	論文標題						
川口裕司	TUFS 言語モジュール						
雑誌名	巻・号	発行年			ページ		
外国語教育研究	6	2	0	0	3	71-75	

著者名	論文標題						
高垣敏博	不定形 ser による受動文						
雑誌名	巻・号	発行年			ページ		
スペイン語学研究	18	2	0	0	3		

著者名	論文標題						
三宅登之	副詞“都”の総括先の「複数性」について						
雑誌名	巻・号	発行年			ページ		
中国語		2	0	0	3	26-31	

著者名	論文標題						
成田節	「文構造と動詞 — 日本語と対照しながらドイツ語の特徴を 探る」						
雑誌名	巻・号	発行年			ページ		
『ドイツ語学の諸相 — 西本美彦先生退官記念論文集 —』郁文堂		2	0	0	4	75-88	

著者名	論文標題						
成田節	「不変化詞動詞と対応表現—コーパス調査に基づく考察 —」						
雑誌名	巻・号	発行年			ページ		
「いわゆる『分離動詞』をめぐって」日本独文学会研究叢 書	2 3	2	0	0	3	40-54	

著者名	論文標題						
吉富朝子	学習者言語分析の変遷：その成果と第二言語教育へ向けての 示唆						
雑誌名	巻・号	発行年			ページ		
言語情報学報告集 2	2	2	0	0	4	121-141	

著者名	論文標題				
<u>CC. LIN</u>	A Developing Method Applied Database Techniques for Web-based Japanese Learning Software				
雑誌名	巻・号	発行年			ページ
World Conf. on Educational Multimedia and Hypermedia 2003		2	0	0	3 4

[図書]

著者名	出版者				
高垣敏博 (共編著)	小学館				
書名	発行年			総ページ数	
ポケットプログレッシブ西和・和西辞典	2	0	0	3	1031

平成 16 (2004) 年度

[雑誌論文]

著者名	論文標題				
<u>川口裕司</u>	紹介 フランス方言学の動向－Mélanges Taverdet を通して－				
雑誌名	巻・号	発行年			ページ
フランス語学研究	38	2	0	0	4 58-63

著者名	論文標題				
<u>川口裕司</u>	外国語教育のIT化 現状と課題				
雑誌名	巻・号	発行年			ページ
外国語教育研究	7	2	0	0	4 71-75

著者名	論文標題				
宮本正美, <u>高垣敏博</u>	スペイン語コーパスによる受動文の検索				
雑誌名	巻・号	発行年			ページ
語学研究所論集(東京外国語大学)	9	2	0	0	4 87-109

著者名	論文標題				
<u>Takayuki Miyake</u>	A usage-based analysis of the causative verb shi in Mandarin Chinese				
雑誌名	巻・号	発行年			ページ
言語情報学2 言語学研究論集1 文構造とコーパス分析		2	0	0	4 7-25

著者名	論文標題			
三宅登之	使役動詞“使”がとる主語の認知論的解釈			
雑誌名	巻・号	発行年		ページ
言語情報学研究報告3 コーパス言語学における構文分析		2	004	11-28

〔図書〕

著者名	出版者		
<u>Toshihiro Takagaki</u> , Yoichiro Tsuruga, <u>Yuji Kawaguchi</u>	21 st Century COE, Usage-Based Linguistic Informatics, Tokyo University of Foreign Studies		
書名	発行年	総ページ数	
Corpus-Based Analyses On Sentence Structures	2004	197	

著者名	出版者		
<u>Yuji Kawaguchi</u> , Susumu Zaima, <u>Toshihiro Takagaki</u> , <u>Kohji Shibano</u> , Mayumi Usami	21 st Century COE, Usage-Based Linguistic Informatics, Tokyo University of Foreign Studies		
書名	発行年	総ページ数	
The First International Conference on Linguistic Informatics –State of the Art and the Future-	2004	441	

著者名	出版者		
池上貞子, 于振領, <u>三宅登之</u>	朝日出版社		
書名	発行年	総ページ数	
初級中国語花ばな一改訂版一	2004	104	

著者名	出版者		
成田 節, 中村俊子	大学書林		
書名	発行年	総ページ数	
冠詞, 前置詞, 格	2004	170	